

世界のすきまに新たな世界を

株主・投資家の皆様へ  
**第95期 報告書**

第95期業績のご報告

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

塀を自由自在にしたのは、  
素材の転換と発想の転換。

## INDEX



ごあいさつ .....	2
連結決算の概要 .....	3
セグメント別業績の概要 .....	5
連結決算の状況 .....	7
単体決算の状況 .....	9
経営方針 .....	11
トピックス .....	13
会社概要 .....	15
株式情報 .....	17

## 株主・投資家の皆様へ



株主・投資家の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第95期(平成26年4月1日から平成27年3月31日)における事業の概況と業績につきまして、ご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、日銀の大規模金融緩和による円安の加速、原油価格の急落によるエネルギーコストの低下等により、輸出関連産業を中心に企業収益に改善がみられるなど緩やかな回復基調が続いているものの、個人消費は消費税増税後の低迷が長期化しており、先行き不透明感は払拭されておられません。

このような状況下、当連結会計年度の売上高は、化学品事業、建材事業ともに前年の実績を上回り、前連結会計年度比4.5%増収の491億53百万円と過去最高を更新しました。利益面では設備増強による費用増加等の影響により、営業利益は前連結会計年度比0.1%減益の61億6百万円となりましたが、経常利益

は同1.4%増益の65億31百万円、当期純利益は同11.1%増益の43億61百万円と、ともに過去最高を更新しました。

当社グループでは、平成28年3月期を最終年度とする3カ年の中期経営計画『SSS over the 500』において、利益水準の維持・向上を図りつつ前計画で積み残した連結売上高500億円の達成を目指しております。コア・コンピタンスに基軸を置いた事業運営、イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ企業志向を経営基本方針に、引き続きグループを挙げて目標達成に取り組んでまいります。

株主・投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

代表取締役会長 兼 C.E.O. **山下 矩仁彦**

代表取締役社長 兼 C.O.O. **田邊 博臣**

## 当期サマリー

### ■ 連結損益計算書

- 売上高は、前連結会計年度比で化学品事業は6.5%増収、建材事業は2.1%増収となり、全体では4.5%増収の491億53百万円でした。
  - 化学品事業は、不溶性硫黄やタフエースの販売が好調でした。建材事業は、エクステリアの販売が住宅・景観分野ともに前年を上回る水準で推移しました。
- 営業利益は、前連結会計年度比0.1%減益の61億6百万円でした。
  - 化学品事業は、反ダンピング提訴によりシアヌル酸誘導品の米国への輸出を一時的に停止したことから、建材事業は資材の調達価格が上昇したことにより、収益性が低下しました。
- 経常利益は、前連結会計年度比1.4%増益の65億31百万円でした。
- 当期純利益は、前連結会計年度比11.1%増益の43億61百万円でした。

以上の通り、営業利益は過去最高であった前年度に僅かに届きませんでした。売上高、経常利益、当期純利益はいずれも過去最高を更新し、増収増益となりました。

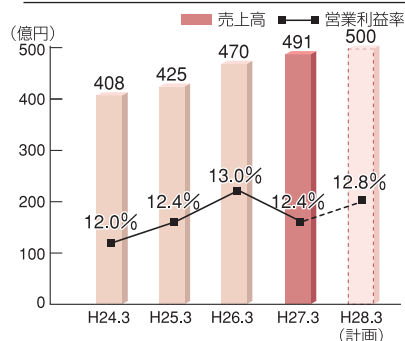
### ■ 連結貸借対照表

- 現金及び預金が52億11百万円、また、保有株式の時価上昇により投資有価証券が31億8百万円増加したことなどから、総資産は前連結会計年度末比82億20百万円増加の742億62百万円になりました。
- 自己資本比率は、前連結会計年度末の68.1%から69.3%に上昇しました。

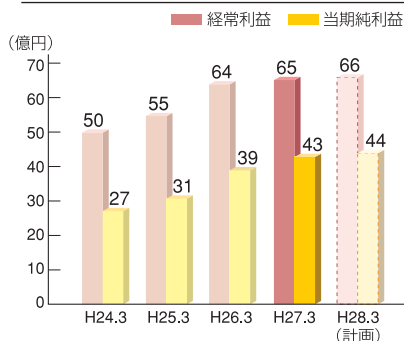
### ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

- 現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末比53億16百万円増加の159億43百万円でした。
  - 主な収入項目は、税金等調整前当期純利益66億73百万円、減価償却費17億43百万円でした。
  - 主な支出項目は、法人税等の支払17億24百万円、有形固定資産の取得9億53百万円、配当金の支払7億1百万円でした。

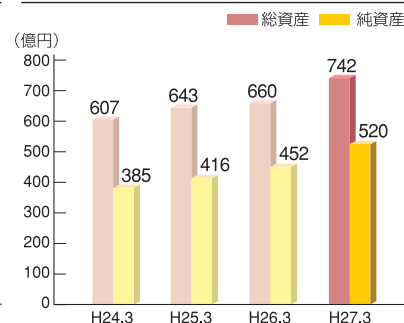
#### 売上高及び営業利益率



#### 経常利益及び当期純利益



#### 総資産及び純資産





## 連結財務指標の推移

(単位：百万円)

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期	対前期増減率 (%)
売上高	40,865	42,502	47,044	49,153	4.5
営業利益	4,919	5,262	6,113	6,106	△ 0.1
経常利益	5,009	5,523	6,443	6,531	1.4
当期純利益	2,714	3,199	3,924	4,361	11.1
1株当たり当期純利益(円)*	46.44	54.74	67.15	74.62	11.1
総資産額	60,797	64,304	66,042	74,262	12.4
純資産額	38,521	41,694	45,241	52,021	15.0
自己資本比率(%)	62.9	64.5	68.1	69.3	1.2 ポイント
1株当たり純資産額(円)	654.54	709.47	769.85	881.06	14.4

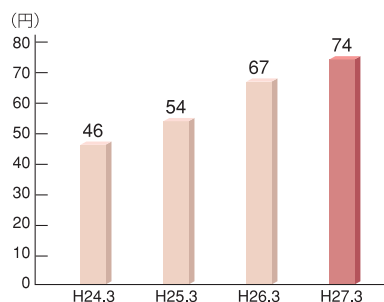
1) 平成24年3月期は歴史的な円高の影響を受け、減収減益となりました。

2) 平成25年3月期は、円高修正、株価上昇など、景気回復への期待感が高まるなか、増収増益となりました。

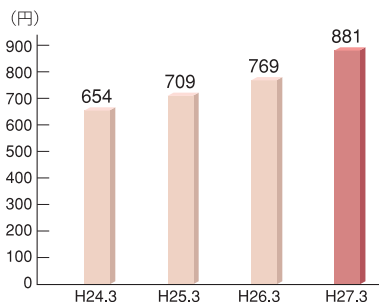
3) 平成26年3月期は、経済対策により景気が回復基調にあり、増収増益となりました。

\*1株当たり当期純利益は、自己株式を控除した期中平均発行済株式数により算出しています。

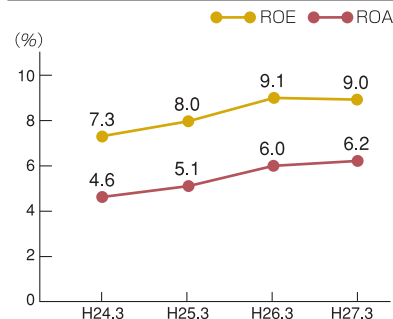
### 1株当たり当期純利益

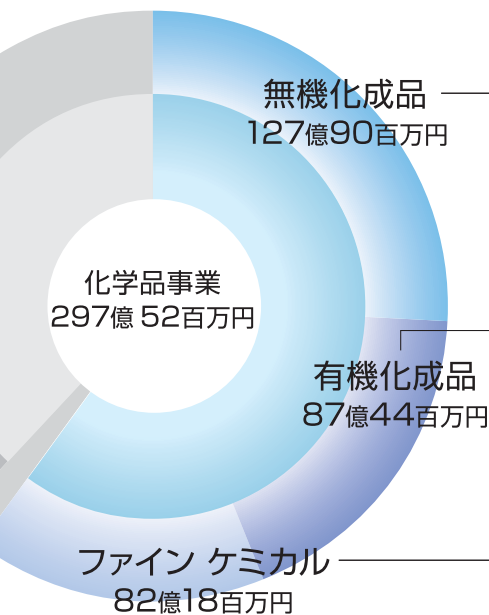


### 1株当たり純資産額



### 自己資本当期純利益率 (ROE) 総資産当期純利益率 (ROA)





【主要製品・用途】

- 不溶性硫黄……………ラジアルタイヤ用加硫剤
- 二硫化炭素……………化学繊維レーヨンの必須原料
- 無水芒硝……………入浴剤の温浴効果促進剤  
合成洗剤の洗浄助剤



【主要製品・用途】

- シアヌル酸誘導品…プール・浄化槽の殺菌消毒剤  
船舶バラスト水の殺菌剤
- ハイポルカ……………排水・汚泥処理剤



【主要製品・用途】

- タフエース……………プリント配線板向け水溶性防錆剤
- イミダゾール類……………エポキシ樹脂の硬化剤  
機能材料、医薬品原料
- インク類……………電子部品材料

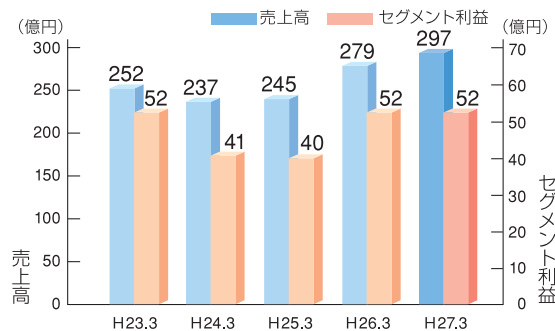


## 化学品事業

不溶性硫黄は、輸出を中心に販売が好調でした。シアヌル酸誘導品は、主要市場の米国で日本製品が反ダンピングの提訴を受け、一時的に輸出を停止したことから、採算性が低下しました。なお、この訴えは退けられたため、輸出を再開しています。タフエースは、国内販売、輸出ともに好調でした。イミダゾール類は、国内販売が伸び悩み、試験製造用の設備増強により研究開発費が増加しました。

この結果、化学品事業の売上高は297億52百万円前連結会計年度比6.5%の増収、セグメント利益は52億17百万円前連結会計年度比1.1%の減益となりました。

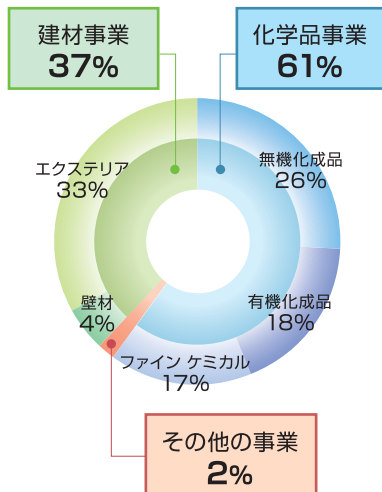
### 業績推移





## 連結売上高と構成比

合計 491億 53百万円



### 【主要製品】

- 住宅エクステリア………  
門扉、フェンス  
カーポート  
アコーディオン門扉  
アルミシステム塀

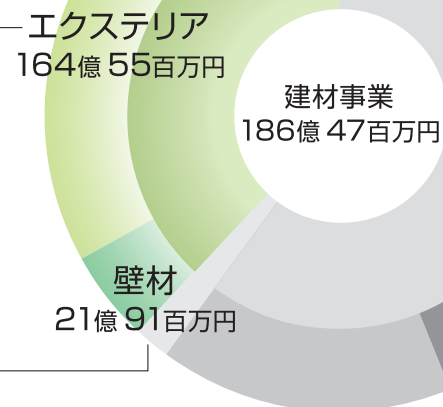


- 景観エクステリア………  
大型門扉、大型フェンス  
通路用シェルター  
自転車置場  
ゴミ集積庫、屋上緑化等



### 【主要製品】

- 内装材、外装材、舗装材

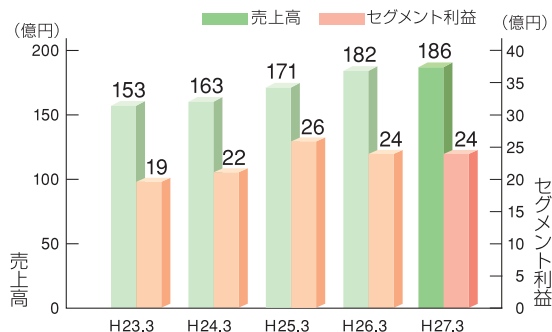


## 建材事業

エクステリアは、カーポートやフェンスなどを中心に、住宅分野、景観分野ともに販売は好調に推移しましたが、円安の影響等により原材料調達価格が上昇し、収益性は低下しました。壁材は、消費税増税後の反動による新設住宅着工数の減少や湿式壁材市場の停滞により低調に推移しました。

この結果、建材事業の売上高は186億47百万円、前連結会計年度比2.1%の増収、セグメント利益は24億65百万円、前連結会計年度比0.6%の増益となりました。

### ■ 業績推移



■連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	平成26年3月期 (平成26年3月31日現在)	平成27年3月期 (平成27年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>34,700</b>	<b>39,901</b>
現金及び預金	10,732	15,943
受取手形及び売掛金	14,788	14,701
商品及び製品	5,863	5,829
仕掛品	108	76
原材料及び貯蔵品	2,231	2,560
繰延税金資産	653	621
その他	322	168
<b>固定資産</b>	<b>31,341</b>	<b>34,360</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>17,485</b>	<b>17,762</b>
建物及び構築物	4,864	4,704
機械装置及び運搬具	3,656	3,357
土地	8,379	8,790
建設仮勘定	57	413
その他	527	496
<b>無形固定資産</b>	<b>326</b>	<b>335</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>13,529</b>	<b>16,263</b>
投資有価証券	12,238	15,346
繰延税金資産	658	110
その他	632	805
<b>資産合計</b>	<b>66,042</b>	<b>74,262</b>

科 目	平成26年3月期 (平成26年3月31日現在)	平成27年3月期 (平成27年3月31日現在)
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>14,360</b>	<b>16,516</b>
支払手形及び買掛金	7,876	8,015
短期借入金	1,950	1,990
1年内返済予定の長期借入金	327	1,198
未払法人税等	823	1,222
その他	3,383	4,090
<b>固定負債</b>	<b>6,440</b>	<b>5,724</b>
長期借入金	1,545	517
再評価に係る繰延税金負債	1,549	1,404
退職給付に係る負債	2,363	2,139
その他	982	1,662
<b>負債合計</b>	<b>20,801</b>	<b>22,240</b>
<b>(純資産の部)</b>		
<b>株主資本</b>	<b>42,005</b>	<b>45,809</b>
資本金	6,867	6,867
資本剰余金	5,741	5,741
利益剰余金	29,692	33,501
自己株式	△297	△301
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>2,987</b>	<b>5,678</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>247</b>	<b>533</b>
<b>純資産合計</b>	<b>45,241</b>	<b>52,021</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>66,042</b>	<b>74,262</b>





## ■連結損益計算書（要旨）

（単位:百万円）

科 目	平成 26年 3月期 (平成 25年 4月 1日から 平成 26年 3月 31日まで)	平成 27年 3月期 (平成 26年 4月 1日から 平成 27年 3月 31日まで)
売上高	47,044	49,153
売上原価	29,452	31,296
売上総利益	17,591	17,856
販売費及び一般管理費	11,477	11,750
営業利益	6,113	6,106
営業外収益	480	588
営業外費用	150	163
経常利益	6,443	6,531
特別利益	244	217
特別損失	683	75
税金等調整前当期純利益	6,004	6,673
法人税等	2,065	2,291
少数株主損益調整前当期純利益	3,939	4,382
少数株主利益	14	21
当期純利益	3,924	4,361

## ■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位:百万円）

科 目	平成 26年 3月期 (平成 25年 4月 1日から 平成 26年 3月 31日まで)	平成 27年 3月期 (平成 26年 4月 1日から 平成 27年 3月 31日まで)
現金及び現金同等物の期首残高	9,947	10,627
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,465	7,486
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,506	△1,536
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,445	△971
現金及び現金同等物に係る換算差額	165	338
現金及び現金同等物の増加額	679	5,316
現金及び現金同等物の期末残高	10,627	15,943

## ■連結株主資本等変動計算書（要旨）

（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

（単位:百万円）

	株主資本合計	その他の 包括利益 累計額合計	少数株主持分	純資産合計
当期首残高	42,005	2,987	247	45,241
会計方針の変更による累積的影響額	148			148
会計方針の変更を反映した当期首残高	42,153	2,987	247	45,389
当期変動額				
剰余金の配当	△701			△701
当期純利益	4,361			4,361
自己株式の取得	△4			△4
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		2,690	285	2,976
当期変動額合計	3,655	2,690	285	6,632
当期末残高	45,809	5,678	533	52,021

## ■貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	平成26年3月期 (平成26年3月31日現在)	平成27年3月期 (平成27年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>30,054</b>	<b>34,635</b>
現金及び預金	9,257	13,924
受取手形及び売掛金	13,139	13,064
商品及び製品	5,561	5,570
仕掛品	6	0
原材料及び貯蔵品	1,147	1,225
繰延税金資産	376	382
その他	565	469
<b>固定資産</b>	<b>29,852</b>	<b>33,183</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>15,725</b>	<b>14,996</b>
建物及び構築物	4,141	3,932
機械及び装置	3,377	2,902
土地	7,733	7,733
建設仮勘定	56	24
その他	416	403
<b>無形固定資産</b>	<b>324</b>	<b>278</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>13,802</b>	<b>17,908</b>
投資有価証券	11,394	14,616
繰延税金資産	-	-
その他	2,407	3,292
<b>資産合計</b>	<b>59,906</b>	<b>67,819</b>

科 目	平成26年3月期 (平成26年3月31日現在)	平成27年3月期 (平成27年3月31日現在)
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>13,135</b>	<b>15,326</b>
支払手形及び買掛金	6,661	7,560
短期借入金	2,750	2,630
未払金	1,399	1,307
未払法人税等	645	1,096
その他	1,678	2,731
<b>固定負債</b>	<b>5,683</b>	<b>5,534</b>
長期借入金	1,545	503
再評価に係る繰延税金負債	1,549	1,404
退職給付引当金	1,585	1,576
その他	1,002	2,050
<b>負債合計</b>	<b>18,818</b>	<b>20,860</b>
<b>(純資産の部)</b>		
<b>株主資本</b>	<b>37,653</b>	<b>41,186</b>
資本金	6,867	6,867
資本剰余金	5,741	5,741
利益剰余金	25,341	28,877
自己株式	△297	△301
<b>評価・換算差額等</b>	<b>3,433</b>	<b>5,772</b>
<b>純資産合計</b>	<b>41,087</b>	<b>46,958</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>59,906</b>	<b>67,819</b>



## ■損益計算書（要旨）

（単位:百万円）

科 目	平成26年3月期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	平成27年3月期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>43,802</b>	<b>43,002</b>
売上原価	28,704	27,925
<b>売上総利益</b>	<b>15,098</b>	<b>15,077</b>
販売費及び一般管理費	9,851	9,896
<b>営業利益</b>	<b>5,246</b>	<b>5,180</b>
営業外収益	846	897
営業外費用	156	156
<b>経常利益</b>	<b>5,935</b>	<b>5,921</b>
特別利益	244	167
特別損失	671	73
<b>税引前当期純利益</b>	<b>5,508</b>	<b>6,015</b>
法人税、住民税及び事業税	1,473	1,813
法人税等調整額	233	112
<b>当期純利益</b>	<b>3,800</b>	<b>4,089</b>

## ■株主資本等変動計算書（要旨）

（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

（単位:百万円）

	株主資本合計	評価・換算差額等合計	純資産合計
<b>当期首残高</b>	<b>37,653</b>	<b>3,433</b>	<b>41,087</b>
会計方針の変更による累積的影響額	148		148
<b>会計方針の変更を反映した当期首残高</b>	<b>37,802</b>	<b>3,433</b>	<b>41,235</b>
<b>当期変動額</b>			
剰余金の配当	△701		△701
当期純利益	4,089		4,089
自己株式の取得	△4		△4
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		2,338	2,338
<b>当期変動額合計</b>	<b>3,383</b>	<b>2,338</b>	<b>5,722</b>
<b>当期末残高</b>	<b>41,186</b>	<b>5,772</b>	<b>46,958</b>

## グループ基本方針

当社グループは、企業理念「独創力」のもと、「豊かで輝く企業、小粒でも世界に通用する企業集団となる」ことを企業ビジョンに掲げ、独創的な技術に主眼を置いたグローバルな事業活動を展開し、社会に貢献する企業であり続けることを目指しています。

経営の基本方針として、「コア・コンピタンスに基軸を置いた事業運営」と「イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ企業志向」の2つを定め、また社員全員が日々の業務を行ううえで常に念頭に置いておくべき心構えとして「スピード&ストレッチ」、「アグレッシブ&チャレンジング」、「現場重視」の3つの社員行動指針を定めています。

## 中期経営計画『SSS over the 500』について

当社グループは、重視する経営指標として、会社規模の観点から「連結売上高」、収益性の観点から「連結営業利益」、投下資本に対する運用効率の観点から「ROA(総資産当期純利益率)」を設定しています。

上記の企業ビジョンに近づくため、平成28年3月期を最終年度とする3年間の中期経営計画『SSS(Shikoku Survival Strategy) over the 500』では数値目標として、利益水準の維持・向上を図りつつ連結売上高500億円の突破を掲げています。

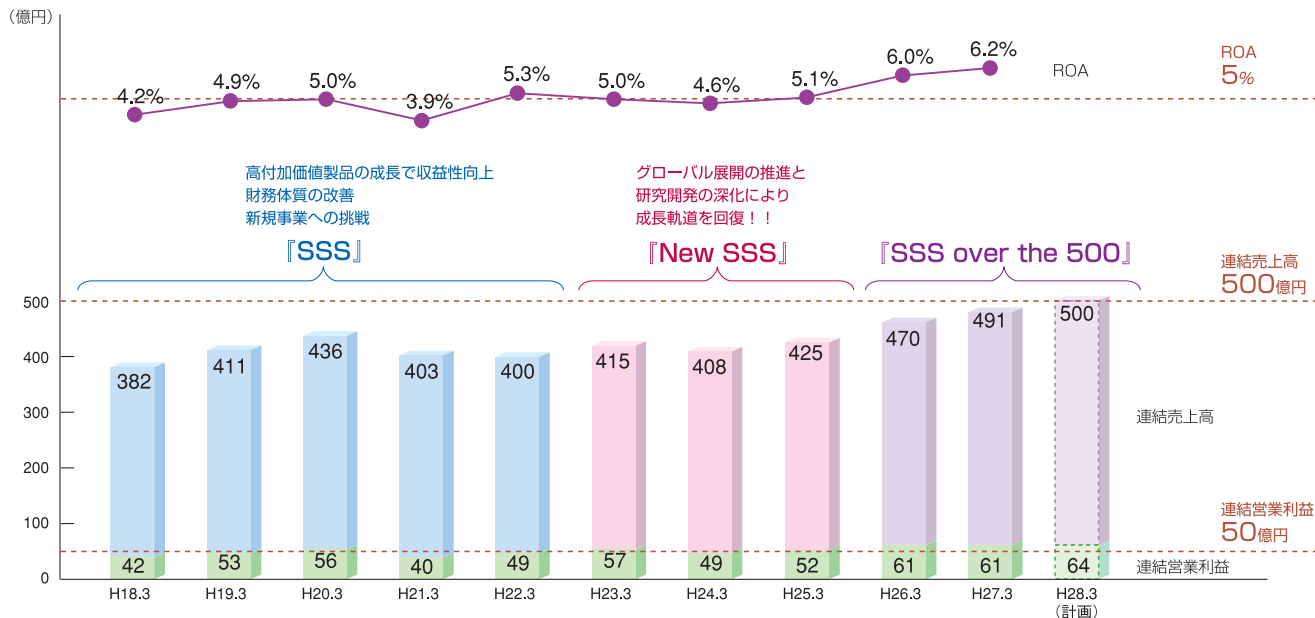
化学品事業ではグローバル・ニッチの方針のもと、不溶性硫黄、シアヌル酸誘導品、タフエースといったコア製品の更なる拡大・成長に努めるとともに、イミダゾール類や新規イソシアヌル酸誘導体を始めとするファイン ケミカル分野の成長に注力しています。

建材事業では、アルミシステム塀「アートウォール」など、壁材とエクステリアを融合させた独創的な商品による新規事業領域の創出に取り組むとともに、汎用グレードへの注力による事業規模の拡大にも努め、一層の効率化を推進しつつ事業基盤の強化を図っています。

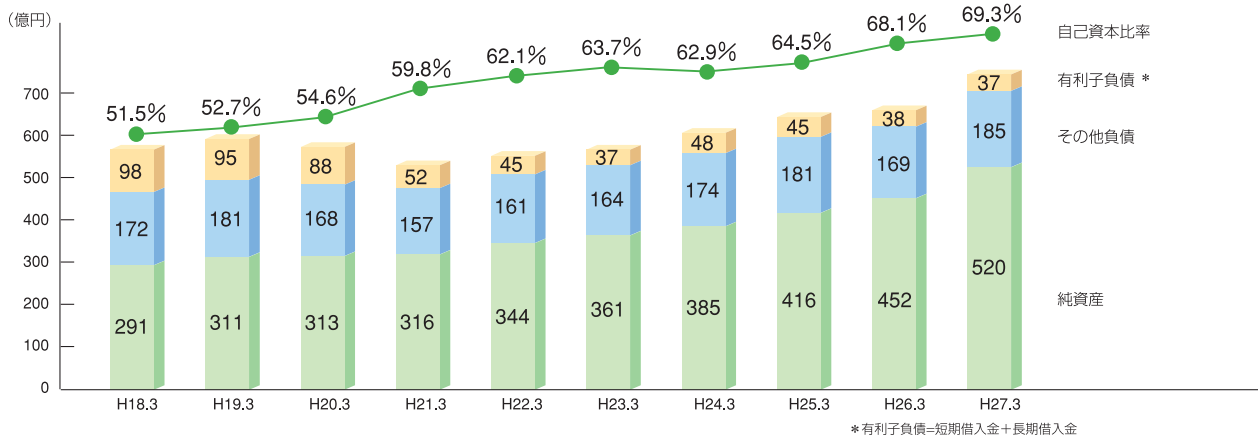




## 業績の推移(連結)



## 資本構成の推移(連結)

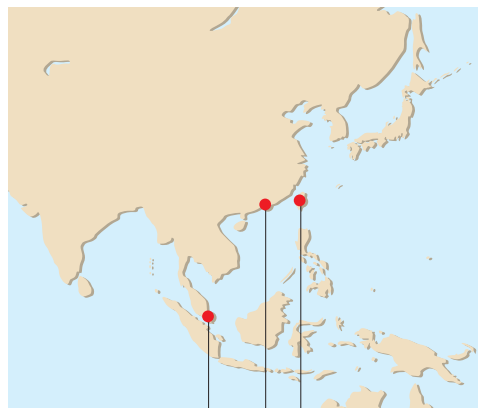


## 台湾・シンガポール事務所を開設

現在、海外売上上の約60%を占めるアジア市場は、当社にとって重要な戦略地域です。

このほど、プリント配線板向け水溶性防錆剤「タフエース®」の販売先である半導体受託製造メーカーや、その関連企業の集積が進む台湾、また日系プリント基板メーカーの工場進出が進む東南アジアにおいて、営業体制の強化を図るための新たな拠点として、台湾とシンガポールに事務所を開設しました。ファイン ケミカル事業の海外営業拠点としては、2012年の中国(深圳)における駐在員事務所開設に続くものです。

電子機器分野の進展と相まって猛スピードで進むプリント基板技術。新たな拠点ではきめ細やかな技術サポートを顧客に提供するとともに、最先端技術の現場で重要なマーケティング機能を果たしてまいります。



シンガポール支店

深圳駐在員事務所

台湾代表人事務所

## 医療・介護施設向けの衛生処理剤を発売

医療・介護分野に最適な塩素系の衛生処理剤「ネオクロールスティック®」を発売しました。食器類、衣類やリネン類、吐しゃ物で汚れた床などさまざまな場所を塩素でしっかり処理できます。顆粒タイプの個別包装なので取り扱いが簡単、その上、有効塩素濃度を低下させることなく長期保存が可能です。さらには、弱酸性で衣類や床に使用しても液体塩素より脱色の心配が少なく、肌に優しいなどの特長を有し、医療・介護の現場の声を生かした商品となっています。

1964年、独創的な製造技術と開発により、国内で初めて塩素化イソシアヌル酸の量産化に成功して50年。プール、浄化槽やサニタリー分野で培った実績をもとに新たな用途開拓を進め、世界の環境衛生に幅広く貢献してまいります。



ネオクロールスティック® スターターセット



## アルミシステム塀「アートウォール」のアイテム充実と木調デザインの「アレグリア門扉・引戸」などを新発売

当社が業界に先駆けて開発したアルミシステム塀「アートウォール」に、直接門扉が取り付けられるユニットを追加したほか、木調デザインの「アレグリア門扉・引戸」や、リフォーム対応商品などの新商品を発売しました。

「アートウォール」は、アルミフレームと化粧材を組み合わせた新しい外塀で、軽量な本体構造で地震などによる倒壊時の危険を最小限に抑えられる「安全性」、フェンスと同等の簡単な「施工性」、自由な表現力による「意匠性」が特徴です。

この「アートウォール」と新商品「アレグリア門扉」を組み合わせることで、門まわりを木調デザインで統一し、植栽との調和も可能となるなど、コーディネート幅が大きく広がりました。

いつもの場所を価値ある空間に。

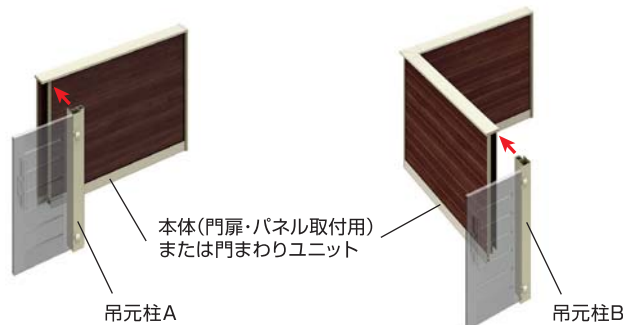
当社は戸建住宅をはじめ、景観分野においても皆様のお役に立てるモノづくりをすすめてまいります。



アートウォールmodern (モダン)とアレグリア門扉TL1型とのコーディネート

門扉を平行に取り付け

門扉を垂直に取り付け



当社建材事業サイトでは、2015年新商品を楽しい動画で紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://kenzai.shikoku.co.jp/new2015/index.html>

( 四国化成建材事業サイト → ピックアップコンテンツ → 2015年新商品のご案内 )



## 会社概要

会社設立	昭和22年10月10日
上場	東京証券取引所 第一部
資本金	68億67百万円
グループ従業員数 (平成27年3月31日現在)	1,029名

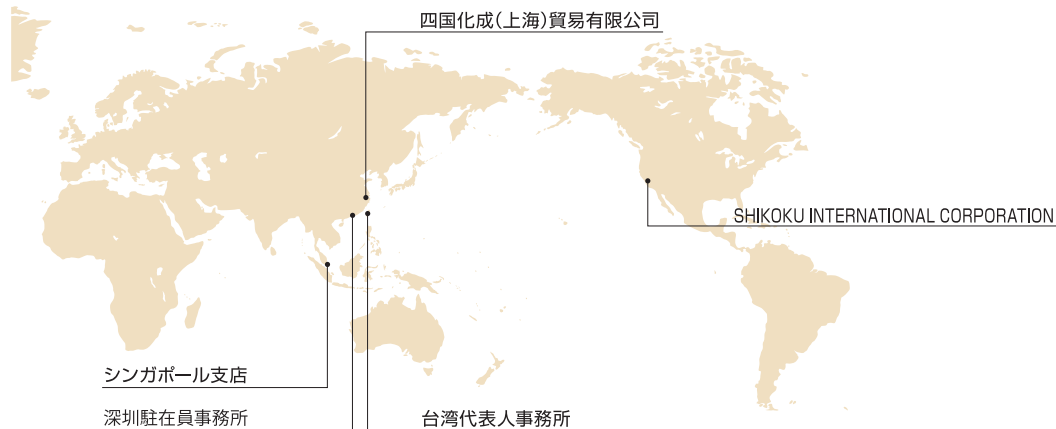


本社

## 国内拠点



## 海外拠点







## 役員

代表取締役会長 兼 C.E.O.	山下 矩仁彦
代表取締役社長 兼 C.O.O.	田邊 博臣
取締役 専務執行役員	吉岡 隆
取締役 専務執行役員	田中 直人
取締役 専務執行役員	畑元 彦
取締役 専務執行役員	富田 俊彦
取締役 執行役員	真鍋 志朗
取締役 執行役員	渡邊 充範
取締役 執行役員	児玉 啓樹
取締役 (社外取締役)	高梨 英史
常勤 監査役	松原 純
常勤 監査役	直井 工
監査役 (社外監査役)	井出 義男
監査役 (社外監査役)	籠池 信宏
執行役員	安藤 正泰
執行役員	高木 仁史
執行役員	小野 昭
執行役員	濱崎 誠
執行役員	岸 孝昭
執行役員	井出 浩孝
執行役員	平尾 浩彦

## グループ各社

連結子会社 10社

化学 建材 その他

■ SHIKOKU INTERNATIONAL CORPORATION	資本金 700千米ドル	持株比率 100%
■ 日本硫炭工業株式会社	資本金 400百万円	持株比率 73.7%
■ シコク環境ビジネス株式会社	資本金 20百万円	持株比率 72.5%
■ シコク分析センター株式会社	資本金 10百万円	持株比率 80%
■ シコク興産株式会社	資本金 90百万円	持株比率 100%
■ シコク景材株式会社	資本金 98百万円	持株比率 100%
■ シコク景材関東株式会社	資本金 50百万円	持株比率 100%
■ シコク・システム工房株式会社	資本金 50百万円	持株比率 100%
■ シコク・フーズ商事株式会社	資本金 20百万円	持株比率 100%
■ シコク・フーズ保険サービス株式会社	資本金 5百万円	持株比率 100%

非連結子会社 1社

■ 四国化成(上海)貿易有限公司

## 株式の状況

平成27年3月31日現在

発行可能株式総数	235,850,000株
発行済株式総数	58,948,063株
株主数	4,245名

## 株主の状況 (上位10名)

平成27年3月31日現在

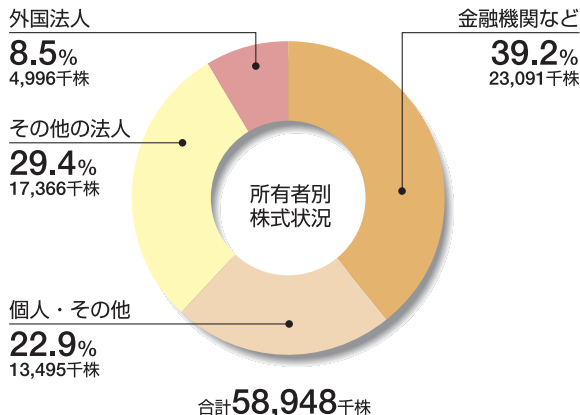
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清紡ホールディングス株式会社	5,580	9.55
シコク共栄会	4,420	7.56
日本生命保険相互会社	3,295	5.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・(株)百十四銀行口)	2,640	4.52
株式会社香川銀行	2,500	4.28
株式会社四国銀行	1,750	2.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,556	2.66
株式会社伊予銀行	1,500	2.57
株式会社中国銀行	1,500	2.57
東京海上日動火災保険株式会社	1,414	2.42

(注) ●持株比率は自己株式を控除して計算しております。

- 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)の持株数には、株式会社百十四銀行が自己名義で保有している300千株を含めて記載しております。

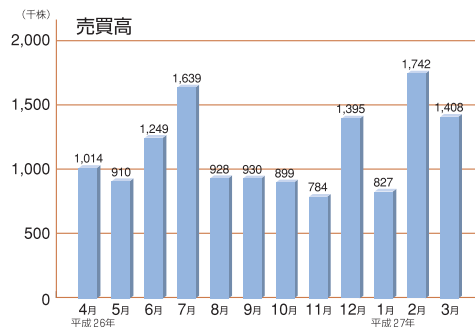
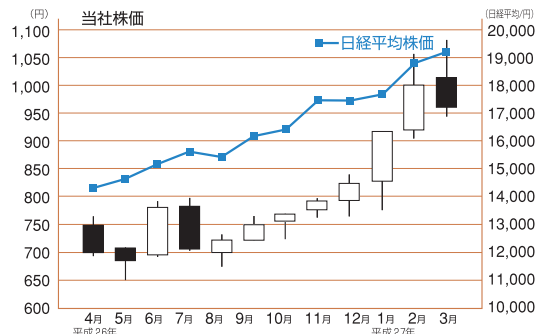
## 株式分布状況

平成27年3月31日現在



## 株価及び売買高の推移

東京証券取引所



## 1株当たり株主配当金

当期 **13.5円 (年間)** \*1.5円増配  
 来期 **15円 (年間) 予定**

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つと位置付けています。中長期の視点から適正な利益を確保しつつ、業績に裏付けられた成果配分を安定的に行うことを基本方針に、株式上市以来永年にわたる安定配当を継続してまいりました。

業績・財務状況等を総合的に勘案した結果、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、平成27年3月期(第95期)の期末配当を従来から1.5円増配して7.5円(年間13.5円)といたしました。また、平成28年3月期の予想については中間配当も1.5円増配し、年間15円へ増配を予定しています。



## 株主優待制度について

期末現在における1,000株以上保有の株主様を対象に、地域の特産品(3,000円相当)を一律に贈呈いたします。平成27年6月には、地元香川の特産品である讃岐うどんをお届けいたしました。

## 株式に関するお知らせ

- 単元未満株式の買取・買増制度について  
単元未満株式(1,000株に満たない株式)を買い取らせていただく「買取請求制度」と、不足分を買い増していただき単元株式(1,000株)にまとめる単元未満株式の「買増請求制度」をご利用いただけます。
- 特別口座の株式について  
特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買ができません。証券会社等に口座を開設し、株式を振替えることで、円滑な株式の売買が可能です。

## 株式に関するお手続きについて

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続きお取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店及び全国各支店
未払い配当金のお支払い		みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 みずほ銀行 本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります。)

## 株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 …………… 3月31日  
剰余金の配当 期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
このほか必要ある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
- 公告方法  
当社のホームページに電子公告として掲載いたします。  
<http://www.shikoku.co.jp/ir/denshi.html>  
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 上場取引所 東京証券取引所
- 株主様窓口  
四国化成工業株式会社 総務部  
〒763-8504  
香川県丸亀市土器町東八丁目537番地1  
TEL.0877-21-4111



### アルミシステム塀【アートウォール】

ブロックでもフェンスでもない第3の塀。「アートウォール」は、軽量構造、簡単施工、あらゆるプランに対応可能な自由度の高い新感覚のシステム塀。住まいの演出の幅を大きく広げます。

